

原子力リスク研究センター（NRRC） 第11回 技術会議 議事録

1. 日 時：2016年7月14日（木）15：00～18：00
2. 場 所：電力中央研究所 大手町本部 役員大会議室
3. 出席者（順不同、敬称略）
主査：横尾（NRRC）
委員：河田（北海道電力;楨代理）、小保内（東北電力;加藤代理）、五十嵐・川村（東京電力）、増田・中川・名倉（中部電力）、高橋（北陸電力）、大石・吉原・浦田（関西電力;鈴木代理）、岩崎（中国電力）、西村（四国電力;川西代理）、岡野（九州電力）、石坂（日本原電）、岡村（日本原燃）、鞍本（電源開発）、野田（東芝）、今野（日立GE）、吉津（三菱重工;河野代理）、倉田（原安進）、高橋・示野・座間・酒井・山本（NRRC）

4. 議事概要

(1) 2017年度研究計画の方向性について

○横尾所長代理より、2017年度 電力中央研究所 研究計画の策定状況について報告がなされた。

○座間・酒井研究コーディネーターより、リスク評価分野および自然外部事象分野の2017年度研究計画の方向性として、以下の研究計画について報告がなされた。

<リスク評価分野>

1. マルチユニット PRA 手法開発
2. PRA のためのデータ分析・信頼性評価基盤技術の確立
3. 火災 PRA、火災防護高度化
4. 溢水 PRA
5. 人間信頼性評価（HRA）の手法開発
6. シビアアクシデント（SA）時の事故進展
7. SA 時の格納施設健全性
8. SA 時の核分裂生成物（FP）移行挙動
9. 再臨界に対する評価技術の開発
10. レベル3PRA 技術検討
11. リスクコミュニケーション

＜自然外部事象分野＞

1. 断層活動性
2. 地震動
3. 火山
4. 竜巻等極端気象
5. 津波
6. 機器耐震性
7. 建屋耐震性
8. 地盤・構造物耐震性

(外部委員からの主なコメント)

- ◆各種の手法を開発した結果として、最終的には我々ユーザーがそれを使いこなせるようにガイドラインを作ってもらうことが重要だ。PRA を何に使うかによって、どのような精度が必要か、どこまでを対象に評価するか、といったことも異なってくる。実際の適用事例を意識してガイドラインを作ってほしい。
- ◆ガイドラインを使って各社が PRA を実施する際には、プラント毎の差異を踏まえて対応することになる。パイロットプラントでの適用を踏まえてガイドラインが整備されるので、パイロットプラントにおいて判断した際の根拠やデータも共有できるように願います。
- ◆格納容器破損時の FP 放出量を評価する上では、セシウム等のエアロゾルの挙動評価は重要な点の一つであり、NRRC の技術的なサポートを期待する。
- ◆建屋の応答特性評価については、配管系の多点入力をどこまで合理化するかといった課題を解決する必要がある。

(2) NRRCの活動状況について

- 高橋チームリーダーより、7月に発足したリスク情報活用推進チームの当面の主要な活動について報告がなされた。

(外部委員からの主なコメント)

- ◆海外におけるリスク情報活用の成功例と失敗例を調査し、成功／失敗した理由が何であるかを分析することで、日本での導入にあたり参考となる知見が得られることを期待している。

以上